

林業技術センター
普及班便り
(第21回)

あなたの山づくりを 応援する林業普及 いわての林業 経営者「その11」

一 はじめに

今月は、山の手入れにこだわりを持っていてねいに行いながら、森林の価値を高める取り組みを行なわれている釜石市の佐々木弘さんをご紹介します。



佐々木 弘氏

二 人物紹介 「プロフィール」

佐々木弘さんは釜石市生まれ。市内の企業に勤務されていましたが、休日には山を見回ってつる切りなどに汗を流し、ときにはご自分の山から木を切り出して、ご自宅の土間を増築されたりしていたそうです。

在職中はなかなか山に行く時間が

取れなかったという佐々木さんですが、退職を期に本格的に山の手入れを始められました。

三 山仕事へのこだわり (1) 枝打ちへのこだわり

佐々木さんの案内で山に入ると、きれいに枝打ちされたスギ林が目につくことができました。



枝打ちされたスギ林

比較的若い山を多くお持ちの佐々木さんは、保育の中でも特に枝打ちに力を入れていらっしゃいます。

木を育て森を守っていく上で、枝打ちは絶対に必要だという信念のもと、スギの枝打ちをするにあたり、いつごろ始めたらいいか、どの高さまで打てばよいか、どんな道具が良いかなど、生長量を較べるなど試行

錯誤を繰り返しながら研究を重ねたそうです。

その熱心な研究の結果、幹の直径が4〜5cm程度、缶コーヒーの太さ程度での枝打ちがよいとの結論に達し、ほぼ全山に渡って枝打ちが行なわれています。



枝は林内に集積

(2) 環境へのこだわり

釜石市は地形的に急な山が多く、大雨による災害発生の危険性が高い土地柄です。

そこで佐々木さんは、枝打ちした枝が大雨時に下流域へ流出して周辺に迷惑をかけないよう、林内の枝を集積しているほか、沢筋の枝は林外搬出されています。

また、林内に張り巡らされた作業路網についても、水切りを付けて定期的に補修を行なうなど、労力を惜

しまずに災害予防に取り組みられています。



林内路網は150m/ha程度

(3) 山仕事に向かう姿勢

佐々木さんからは、自らが思い描く理想的な森林の整備に向けて、決して妥協せず、満足の行く仕事をやり抜こうとする強い意志が感じられました。

教科書の技術を自分の山に取り入れるため、試行錯誤を繰り返しながら研究し、実践されている姿は、林業経営者として将にあるべき姿なのではないかと思いました。

四 おわりに

普及班便りでは、これからも林業に関係するさまざまな人たちについて紹介していきたいと考えておりますのでよろしくお願ひします。

林業技術センター普及班